

7. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やSNSなどでの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたり、そのためには幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことから、ボランティア・NPO 活動センターでは、ボランティア活動を推進していくために、社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへさまざまな研修の機会を提供しています。

また、毎週の学生スタッフミーティングやほぼ毎月開催する教育職員・事務職員・学生スタッフでのボラセン会議において、学生企画や教職員からの提案についての意見交換をおこなっています。さらに、教職員で構成された正式な学内組織であるセンター委員会にも学生スタッフの代表がオブザーバー参加しています。こうした会議への参加やセンターの運営への参画が、学生スタッフの育成として大きな意味を持っています。

| | |
|--------------------|--|
| 事業名 | 令和3年度年度新生歓迎行事〔深草〕 |
| 日時 | 2021年4月1日（木）～2021年5月14日（金） |
| 場所 | 龍谷大学深草キャンパス内 |
| 実施主体 | 龍谷大学学友会中央執行委員会／ボランティア・NPO 活動センター（深草） |
| 参加人数 | 学生スタッフ19名、ガイダンス参加者人数 97名 |
| 企画メンバー (学生スタッフ) | 濱田 葵（文学3） 早川歩伽（文学3） 川根脩那（経済3） 永野凌平（経営3） 石井翔大（法学3） 園原 聖（法学3） 竹内祐人（法学3） 谷垣俊弥（法学3） 小林初音（国際3） 井関萌乃（文学2） 喜多真央（文学2） 徳田光輝（文学2） 崇田ゆきの（文学2） 大原健太郎（経営2） 小峠友香（経済2） 三野涼介（経済2） 松本航紀（経営2） 伊野涼雅（短大2） 山本那津子（短大2） |

1. 経緯・目的

新歓活動を通して、新生に龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター（以下、センター）の学生スタッフについて知ってもらい、興味をもってもらおう。そして、新スタッフの募集と共に、センター事業への参加やボランティア相談での来室など、新生向けのセンター利用促進も活動の重要な目的とする。

2. 概要

〈2月〉

①新歓責任者の決定。主に、担当する役割別に班を

分けて、活動を開始。

②学友会アトラクションで使用する紹介動画を作成し、中央執行委員会へ提出。

③ガイダンス日程決定

〈3月〉

①新歓で使用するチラシの作成と中央執行委員会へ提出。

②ガイダンス用パワーポイントのたたき台を一旦完成し、新歓メンバー全員で確認して修正を重ねる。

③立て看板、サンドイッチ看板、ブース上の看板作成。

④センターについての共通した認識を持つために、勉強会を実施。

⑤新型コロナウイルス感染症対策のため、新歓活動を開始する2週間前から各自で体調管理表の記入。

<4月>

①新歓 ブース活動

4月1日(木)～6日(火)、ブース設置4月2日(金)、6日(火)



② LINE オープンチャットを開設。

③ガイダンス後のアンケートを作成。



<ガイダンス>

| 日程 | 12:30～ | 17:00～ | 合計 | 開催方式 |
|---------|------------|--------|---------|------------|
| | 実参加者数(申込数) | | | |
| 4/12(月) | 7(9) | 11(10) | 18(19) | 対面 |
| 4/20(火) | 17(25) | 11(14) | 28(39) | 対面とオンライン併用 |
| 4/22(木) | 13(15) | | 13(15) | オンライン |
| 4/23(金) | 14(16) | | 14(16) | オンライン |
| 4/28(水) | 6(7) | 2(3) | 8(10) | オンライン |
| 5/11(火) | 4(5) | 5(6) | 9(11) | オンライン |
| 5/13(木) | 3(4) | | 3(4) | オンライン |
| 5/14(金) | 4(5) | | 4(5) | オンライン |
| 総合計 | 68(86) | 29(33) | 97(119) | |

※最初は対面で行っていたが、途中で新型コロナウイルスの感染防止のための行動指針のレベル3への移行に基づき Zoom を使用したオンラインでの実施に変更。

※ガイダンス終了後の学生スタッフ希望者の対応は、メールでやりとりし、ガイダンスの録画を見もらう。また、LINE オープンチャットを紹介して、質問を受け、学生スタッフミーティング

の見学案内を行う。

<5月>

①新学生スタッフと学生スタッフ間で、歓迎会と交流会を兼ね備えた催しをオンライン上で実施。

②コアメンバーの振り返りを Google フォームで実施。

3. 参加者の声・得られた効果など

Google フォームを使用してガイダンス後にアンケートを実施した。

<満足度>

※5(とても満足)～1(満足しなかった)

目標：平均満足度4以上をもらえるようにする。

回答数 82名(結果 5:42名、4:27名、3:13名)

満足度平均 4.4(小数第2位で切り上げ)

多くの参加者から4や5の評価を得ることが出来た。分かりやすく丁寧なガイダンスが行えたのではないかと考える。

<ガイダンス参加者の感想 ＊一部紹介>

- ・ボランティアをしつつ自分のスキルアップを目指すところに魅力を感じました。
- ・普段の活動内容についてイメージが持てたので満足。ただ、班活動や会議の内容について、もう少し掘り下げて知りたかった。
- ・ボランティアサークルとの違いがわからなかった。
- ・ボランティアをする活動だと思っていたけどボランティアを企画できる活動だと知って楽しそうだと興味を持ちました。
- ・オンラインでのガイダンスだったにも関わらず、詳しい活動内容を説明して頂けたのでとても分かりやすかったです。ありがとうございました。
- ・コロナ禍でも活動頻度が高そうなので良かった。

4. 学んだこと・今後の課題

<準備期間>

- ①それぞれの班の役割をもっと明確にしておく。
- ②各班で決めたことは、速やかに他の班にも共有し、MTで意見を出し合って確認しながら進める。
- ③臨機応変に対応するために事前の準備をしっかり行うことが大切。
- ④個人情報の取り扱いは、新歓メンバーだけでなく、職員とも確認しながら慎重に取り扱う

<新歓期間中>

- ①ピラ配り等の際、最低限伝えることは決めておく。
 - ②ブースの机のうえには看板を置かず、机に垂れ下げの形式の方が、看板は団体名が見えやすくなる。
- ＜ガイダンス＞
- ①当日は、時間に余裕をもって準備し、予行を行った方が良い。
 - ②参加者は緊張しているので、大学生活のことなども織り交ぜて説明できるようにする。
 - ③学生スタッフの普段の活動内容の説明をもう少し詳しく説明すると良い。

＜新歓を通して＞

- ①新歓責任者を2名体制にするなど、役割分担の仕方を工夫した方が良い。
- ②チラシの配布や、HP、ポータルサイト、Twitterなどでの広報の効果もあって、ガイダンスは119人の申し込みがあった。多くの方にセンターへの興味を持って貰えたことが何よりの成果だと思う。

＜報告者：井関 萌乃＞

| | |
|--------------------|--|
| 事業名 | 令和3年度年度新入生歓迎行事〔瀬田〕 |
| 日時 | 2021年3月1日～6月3日 |
| 場所 | 龍谷大学瀬田キャンパス |
| 実施主体 | ボランティア・NPO 活動センター（瀬田） |
| 参加人数 | ガイダンス応募者34名 |
| 企画メンバー (学生スタッフ) | 青山友香（社会4） 赤木宏斗（社会4） 東 里音（社会4） 木ノ上莉那（社会4） 木下綾華（社会4） 高岡宏幸（社会4） 土肥亮太（社会4） 南 佳奈（社会4） 大屋晴太郎（農学4） 渡中新太郎（農学4） 小沼芳暉（理工3） 矢羽田聡志（理工3） 朝野健太（社会3） 家原美月（社会3） 井尻由梨香（社会3） 一色剛滉（社会3） 杉山わかな（社会3） 林 大誠（社会3） 安原拓真（社会3） 吉岡秀太（社会3） 小谷悠真（農学3） 片岡克望（社会2） 高橋慶多（社会2） 中西亮太（社会2） 深木真人（社会2） 谷垣美幸（農学2） 鳴海彩紀（農学2） 平石陽菜乃（農学2） 堀井涼花（農学2） 松村優輝（農学2） |

1. 経緯・目的

新入生に対して、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター（以下センター）の活動について周知するために、ブース出展やガイダンス等を行うこととした。それらを通してセンターや学生スタッフ（以下学スタ）について関心を持ってもらい、新たな学スタになってもらうことを目的として実施した。

2. 概要

新歓活動を通し、学スタだけでなく、ボランティア自体にも少しでも興味を持ってもらえるように努めた。

濃厚接触となるような活動はできる限り避け、それぞれの班でできることを試行錯誤した。新型コロナウイルスの影響で4月は対面とオンラインを併用してうまく活動したが、5月には緊急事態宣言の発出や、活動制限レベルが「レベル3」になったことから、オンラインでの活動を徹底した。

＜新入生歓迎班＞

活動内容：ブース出展とそのシフト調整やオンラインパーティの開催

・ピラ配り：4月2日～6日

・ブース：4月3日 32名の新入生が参加

※4月4日も予定していたが、雨天により中止となった。

・オンラインパーティ：

①5月14日 21：00～（17名参加）

②5月18日 21：00～（7名参加）

＜ガイダンス班＞

活動内容：4～5月で計8回、ガイダンス開催

・4月は昼休みの対面ガイダンス、夜のオンラインガイダンスのハイブリッド型で実施した。

・5月は大学の方針により完全オンラインで行った。

・参加連絡がうまくいかなかった方向けに、個別対応のガイダンスを行った。

- ・Google フォームで参加の応募を受け、計34名の応募があった。

<オンライン班>

活動内容：動画作成や、SNS などの情報発信

- ・学友会アトラクションで使用する1分半の動画やtwitterで使用する動画の制作をおこなった。
- ・新入生同士がオンライン上でコミュニケーションが取れることを目的としてLINEのオープンチャットを開設した。

3. 参加者の声、得られた効果など

- ・15名以上に学スタになってもらうことを目標に取り組み、結果、11名を新スタッフとして迎え入れることができた。以下、新スタッフの声である。
- ・同じ学部学科の先輩と個別に話しをする機会があり、いろいろ相談できたので、不安に思っていたことを解消することができた。
- ・センターが何をやってどのように活動しているかの話を詳しく聞くことができ、センターの雰囲気を知ることによって自分がセンターに入った時のことを想像しやすかった。
- ・分からないこと1つあったとしても事細かに教えてくれた。
- ・緊張している新学スタに対してもリードして話をしてくれた。

4. 学んだこと・今後の課題

<新入生歓迎班>

- ・オンラインパーティは、学生スタッフになろうかと迷っている人を対象としたが、学生スタッフになると決めた人だけの参加となった。ブースの時にもっと強く勧誘しておけば良かった。
- ・ビラだけ配れる日があることを直前に知り、急いでシフトを組んだので急遽対応できる一部の学スタに負担をかけることとなった。

<ガイダンス班>

- ・みんなで協力し、リハーサルをするなど事前の準備をしっかりとすることができたので、本番に落ち着いてガイダンスを開催することができた。
- ・オンラインツールの使用や、夜のガイダンスの開催により、感染拡大による大学のレベル変更へも迅速な対応ができ、より良いガイダンスにすることができた。
- ・改善点としては、ガイダンス後にアンケートを実施することや、役割の偏りや機材トラブルへの対応などが挙げられ、次年度に向けて工夫していきたい。

<オンライン班>

- ・コロナ禍ならではのとして、オンライン班を設け、学友会アトラクション用の動画など、動画製作することができた。
- ・オープンチャットをガイダンス班と協力して使用したが、うまく機能せず、本来の目的に沿ったような使い方ができなかった。チャット内で新入生が書き込みやすい雰囲気作りを学スタからもっと積極的に働きかけることが必要であった。

<全体を通して>

オンライン化に伴い、機材トラブルやオープンチャットなどの使い慣れないことへの課題が増えたように思える。初めてのことや、経験の少ないことに取り組むと、新たな課題が起こることは仕方がない。学スタが初めての企画を行う以上、その企画を受ける新スタッフ側も初めてであるので学スタになることや、ボランティアに興味をもつことにできるだけ抵抗を感じさせないような配慮をする必要がある。

また、対面での活動が少なくなり、オンライン中心でコミュニケーションがうまく取れないということもあった。学スタ同士でミスのないように、こまめに連絡を取り合うことが大切だと感じた。

<報告者：矢羽田 聡志>

| | |
|--------------------|---|
| 事業名 | 2021年度オリエンテーション ボラセンしか勝たん！！100人増えても大丈夫！！～シン・学スタ大革命～ |
| 日時 | 2021年7月4日（日）10時00分～17時00分 |
| 場所 | 龍谷大学深草キャンパス22号館302 |
| 実施主体 | ボランティア・NPO 活動センター |
| 参加人数 | 学生スタッフ55名+教職員7名 |
| 企画メンバー (学生スタッフ) | 濱田 葵（文学3） 竹内祐人（法学3） 林 大誠（社会3） 井関萌乃（文学2） 喜多真央（文学2） 崇田ゆきの（文学2） 三野涼介（経済2） 高橋慶多（社会2） |

1. 経緯・目的

オリエンテーションは、新学生スタッフにボランティア・NPO 活動センター（以下ボラセン）の活動内容や学生スタッフの役割を理解してもらい、これから活かせる経験を作り出す場として2019年度まで毎年行ってきた。2020年度は実施できなかったため、参加経験のない上回生スタッフも含め、ボラセンの学生スタッフについて全員が改めて認識し、これからの活動に向けて新しい気付きを得るものとした。

特に今年度は、オリエンテーションワーク後に深草と瀬田、そして学年を超えて、以下の4点ができるようになることを目指して実施する。

- ①色んな場面でお互い助け合う、協力し合えるような関係が築けていること
- ②活動の準備段階で相談し合ったり、MTなどで意見が言えるような関係が築けていること
- ③互いに高め合える関係が築けていること
- ④ボランティア情報や班活動についての情報交換ができる関係が築けていること

2. 概要

10:00 オープニング

10:15 コミュニケーションワーク

「それいけ！ボラセンヒーローズ」



話すことに注目し、相手の話を聞き出し大切な部分を考えまとめ、伝える経験をするためにヒーロー

インタビューや他己紹介を行った。3人1グループで、まずは「今1番の目標」について、1人をヒーロー役、2人がインタビュー役になり、話を聴き出した。次にグループ替えをして、「人生で一番輝いていたとき」についてヒーローインタビューを行った。10分間で聴き出した話から伝えたいことを要約し、自分のグループの人を他のグループに1分間で紹介した。

12:00 昼休み

13:00 企画ワーク「企画マスターへの道」

自分達で企画する際に必要なことについて、SDGsを題材にしながら考えてもらった。現在進行しているSDGsに関する学生スタッフ企画のプレゼンを聞いた後、SDGs17の目標の中から取り組みそうなことを見つけ、企画の立ち上げをイメージし話し合った。最後に、「企画を作る際に大切なこと」をグループごとに考えて発表した。

15:00 コーデワーク

聴くことに注目し、コーディネートについて視野を広げることを目的にワークを行った。来室者対応の動画を流し、動画の途中で2カ所問題を出し、個人とグループで考えた。後半では、ボラセンの部屋の様子を撮影した写真や動画を見てもらい、1番好ましいものをクイズ形式で選んでもらった。

コーデワークを通して自分に必要だと思ったこと・半年後の理想の自分・理想の自分になるために何をしていくかの3つを記入する、「飛び出せ！みらくるシート」をGoogleフォームで送信してもらい、最後は、「やわらかあたまプロジェクト」を提

3. 企画するときが一番大切なこと

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ①様々なことにアンテナを！ | ⑥知識！！ |
| ②明確な趣旨・目的と主体的に取り組む | ⑦具体的な意見・話し合える環境 |
| ③相手の意見を尊重・受け入れ、発展させる | ⑧対象者の目線に立つ |
| ④発信・共有・共感力 | ⑨話しやすい雰囲気 |
| ⑤価値観の共有、視野を広く | ⑩明確な目的・計画性 |

案し、これから大切にして欲しいことを伝えた。



16:40 クロージング

各ワークの終了時に記入した付箋から少しずつ取り上げ、まとめて紹介した。付箋には、それぞれのワークを通して「今後大切にしたいと思ったこと」、「取り組んでいきたいと思ったこと」を記入し、各ワークの模造紙に貼った。

17:00 解散

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・対面で実際に集まってワークを行えて良かった。目の前に人がいて話すのはオンラインでは味わえない良さがあると改めて感じた。
- ・学年の垣根を越えて様々な意見を聞くことができてこれからのボラセンに活かしていこうと思った。
- ・先輩のグループワークでの進め方や意見のまとめ方を見て、「自分もこんなふうになりたい」という目標を見つけることができた。

○効果測定（ワーク終了時アンケート41名回答）

- ・ワークに参加してキャンパス・学年を超えた交流ができましたか？「はい←1・2・3・4・5→いいえ」で回答

| 満足度 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----|-------|-------|------|------|----|
| 人数 | 20名 | 15名 | 4名 | 2名 | 0名 |
| % | 48.8% | 36.6% | 9.8% | 4.9% | 0% |

- ・学生スタッフ同士で良い関係性を築ききっかけになりましたか？「はい←1・2・3・4・5→いいえ」で回答

| 満足度 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----|-----|-------|------|------|------|
| 人数 | 25名 | 10名 | 4名 | 1名 | 1名 |
| % | 61% | 24.4% | 9.8% | 2.4% | 2.4% |

- ・（新学生スタッフ21名回答）センター理解の動画視聴や、ワークを通してボラセンの活動について理解が深まりましたか？「はい←1・2・3・4・5→いいえ」で回答

| 満足度 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----|-------|-------|------|------|----|
| 人数 | 14名 | 5名 | 1名 | 1名 | 0名 |
| % | 66.7% | 23.8% | 4.8% | 4.8% | 0% |

4. 学んだこと・今後の課題

- ・リハーサルを2回行い、お互いのワークについて意見を出し合ったことで客観的な意見を受け、より良いものに修正できた。リハーサルを行う中で、企画メンバーだけで行くと当日の参加者の反応は想像出来にくいので、より本番に近い形で行うには、メンバー以外の協力が必要だと感じた。
- ・グループワークをする際に、1グループの人数が多すぎると、発言する人が偏ってしまうこともあり、話し合いを進めることが難しい場面があった。グループの人数を減らすことや、進行役をあらかじめ決めておくなど、グループ全員が話しやすい仕組みを作る必要があった。
- ・参加者にとって、楽しく、充実したオリエンテーションをするには、まず企画メンバーが伝えたいと思うものを見つけ、準備の段階から楽しみ、作り上げていくことが必要であり、企画メンバーがワーク作りで学んだことを参加者に伝えるという意識が重要だと感じた。



〈報告者：濱田 葵〉

| | |
|--------------------|---|
| 事業名 | 2021年度学生スタッフオリエンテーション 交流会 GO TO 三密～親密・濃密・綿密～ |
| 日時 | オンライン：2021年6月27日（日）13時00分～16時00分 対面運動会：2021年10月10日（日）12時00分～16時00分 |
| 場所 | オンライン：自宅（zoom）※コアメンバーのみ成就館3階301・302にて運営 対面運動会：瀬田キャンパス内瀬田ドーム |
| 実施主体 | ボランティア・NPO 活動センター |
| 参加人数 | オンライン：学生スタッフ55名+職員5名 対面運動会：学生スタッフ32名+職員1名 |
| 企画メンバー (学生スタッフ) | 園原 聖（法学3） 永野凌平（経営3） 松本航紀（経営2） 中西亮太（社会2） |

1. 経緯・目的

例年であれば、オリエンテーション（以下、オリテ）と同日程で運営の中に取り組みれていたが、コロナ禍で合宿ができずワークを1日ですることにより交流の時間が十分に取れない。そこで、別日で交流会を実施することにした。

今年度、新たに仲間になった学生スタッフ（以下、学スタ）と昨年度から所属している学スタの交流の機会を設けたい。また、昨年度はコロナの影響で瀬田と深草の交流はもちろん、キャンパス内での交流もあまりなかった。このままコロナを理由に交流する機会を失えば今後の活動を円滑に進めることができないと考える。そこで7月に行われるオリテの一環として交流会を実施する上で以下の4つのことを目的とする。

- (1) 新学スタが早くボラセンに馴染めるようにする。
- (2) 運動を通じて学スタの緊張をほぐし、交流を円滑に進めることでより親睦を深めること。
- (3) 翌週に行われるワークを円滑に進める。
- (4) 瀬田、深草の交流の機会。

上記の目的を達成することにより、また、後のワークでボラセンでの活動について理解することにより、今後のボラセンが学年、キャンパスを超えて活発に活動していくことを期待する。その第一歩にしたい。

2. 概要

感染状況を考慮し、6月はオンラインで実施した。対面での実施は感染状況が落ち着いた10月に実施。

①オンラインプログラム（6/27）

12：30 入室開始

13：00 開会式

13：10 私は誰でしょう

それぞれのチームでブレイクアウトセッション（以下、セッション）に分かれ、自己紹介として実施。事前に考えていた自己紹介文をコアが読み上げ、誰の自己紹介文なのかを当てる。

13：50 おえかき合戦

2チームが同じセッションに入り、zoomのホワイトボード機能を活用して実施。お題の絵を完成させるゲームで、1分ごとに描く人は交代していき、最後の人が何を描いたか当てる。

14：35 5分間休憩

14：40 家の中の物しりとり

それぞれのチームでセッションに分かれ、家の中にあるものでしりとりをつなげる。

15：10 マッチングジェスチャー

2チームが同じセッションに入り、お題に沿ったジェスチャーをする。チームごとに交互に行って何のジェスチャーかを一方のチームが当てるなど



をした。

15:40 閉会式

②対面運動会 (10/10)

11:30 受付開始

12:00 開会

12:10 自己紹介・準備体操

12:25 ドッジボール

13:25 アバウトサッカー

14:35 大縄

15:15 リレー

16:45 閉会



3. 参加者の声・得られた効果など

①オンラインプログラム

参加者へのアンケートは Google フォームを利用した。回答者数は参加者55名中54名だった。

満足度を「5」が最高の5段階で評価し、「5」が37名、「4」が16名、「3」が1名であり、「1」と「2」の回答者が0名で満足度が高かった。また何人と交流できたかの問いには4人以上と交流できたと回答した人が49名で全体の90.7%だった。多くの人がチーム内で半分以上の人と交流できていることから交流をはかることができたと思う。交流会はオンラインでの実施であったが、多くの人がいろいろな人と交流できたと思う。

以下、アンケートで得た参加者の声を抜粋して記載する。

- ・オンラインでこれだけいろんなことができることに驚いた。
- ・話したことがない人と話せてよかった。
- ・セッションに分かれるからチームの人としか交流ができなかった。
- ・チーム戦だからみんなで話しながら楽しめた。

②対面運動会

オンライン実施時の反省を生かして、リハーサルの際に実際にコアで競技をやってみて、ルールの変

更や確認をしたため当日はスムーズに運営できた。

感染対策のために、もともとあった種目を変更したり、種目の中で接触を避けるようなルールを考えた。みんながわかりやすいようにルールを簡単にしつつ、運動が苦手な人でも参加しやすいように試行錯誤した。

良かった点は緩い雰囲気で開催したため休憩中にみんながボールを使って自由に交流できていたところ。また、今回はコアも楽しむことで、コアも交流に参加できたところ。今回は会場の都合上、開始時点から時間が押していたが調整して予定時間に終了することができた。

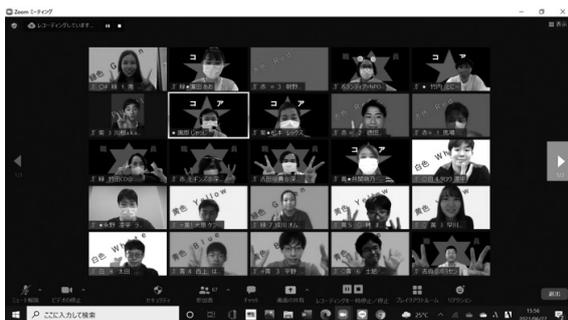
4. 学んだこと・今後の課題

①オンラインプログラム

- ・当日は入ってきた人への説明やパワポの動作で時間がかかり、最初から時間を押していた。しかし、種目の回数を減らすなど臨機応変に変更して終了時間に終了する事ができた。焦らずに時間配分を計算することが大事だと学んだ。
- ・当日のタイムラインを作成し、何をやるかがはっきりしていたため、当日の動きを記入した資料が必要である。
- ・当日までの準備で Excel、PowerPoint を利用していたが、それらの機能の「共有」を使うと誰かが1つのデータにまとめる必要がなく、時間短縮になるため、いろんな機能を活用すると良い。
- ・セッションを頻繁に変えるため、セッションの設定のみを行う人を用意するべきだった。
- ・コア1人当たりの参加者が10人程度であり、時間管理や点数記入、写真撮影などやることが多すぎたため、運営側を増やすと良かった。
- ・オンラインでやる場合、反応がないと分からないため、そのような人への声掛けなどをして反応してもらったべきだった。
- ・以上の問題点はリハーサルを人数揃えて、当日の流れだけでなく、各種目の回し方まで丁寧にしたら気付けたことだと思う。リハーサルは本番に近い状況でやるべきだったと感じた。

②対面運動会

接触を減らすように工夫したが、やはり接触はあるためもう少し想定してルール等を考えた方が良い。事前に会場をもっと確認して、配置なども考えておくべきだった。当日、やっている中で少し変更することがあったが、コアの中で正確に伝えきれていなかった。



〈報告者：園原 聖〉

| | | | |
|--------------------|---|-----------|---|
| 事業名 | 夏研修2021 FUKAKUSA2020+1 ～ワークで超えろ！銀メダル！～〔深草〕 | | |
| 日時 | 2021年9月8日（水）10：00～16：30 | | |
| 場所 | 自宅（Zoom）※コアメンバー5名のみ学生スタッフルームで実施 | | |
| 実施主体 | ボランティア・NPO 活動センター | | |
| 参加人数 | 学生スタッフ29名 | | |
| 企画メンバー （学生スタッフ） | 安本大輝（法学4） | 早川歩伽（文学3） | 伊野涼雅（短大2） 岡田祐依（経済2） 松本航紀（経営2） 西上和希（法学2） 向井音葉（経済1） 諸岡瑞紀（経済1） 馬場康世（文学1） 榎 海斗（法学1） |

1. 経緯・目的

夏合宿は、学生スタッフが前期の活動について振り返り、後期に向けての活動についてじっくり考える場として毎年実施されてきた。しかし、2020年度は実施できず、今年度においても宿泊を伴った合宿は開催できない。そこで、2021年度は、宿泊を伴わない夏研修を実施することで、前期の活動の振り返りや、後期の活動について考える場にしたいと考える。また、今年度、新学生スタッフが多く加入したが、前期の活動停止期間が長く、まだまだ学生スタッフ同士の交流も必要であると考え。以上のことから、今年度の夏研修では、以下の3点を目的として開催したい。

- ①学年関係なく、意見や意思を伝え合える雰囲気や切磋琢磨しあえる関係を築くこと。
- ②来室者に満足してもらえるようなボランティアコーディネートができるようになること。
- ③ボランティアや企画など、学生スタッフとしての活動を意欲的に取り組めるようになること。

2. 概要

- 10：00 オープニング
- 10：15 ワーク1〈自己紹介&前期の振り返りワーク〉
- (1)「ヒーロー自己紹介」
参加者の中から代表で7名が①死ぬ前に食べたい食べ物、②ここがすごいよ！私の地元、③夏研修への意気込み、の3項目で自己紹介を行った。
※この7名は、ワーク1におけるブレイクアウトセッションでのファシリテーターの役割を担当
 - (2)「積木式自己紹介」
7つのブレイクアウトルームに分かれて積木式自己紹介を行った。最初の人自己紹介の項目を決め、次に自己紹介する人は自分より前に自己紹介した人の項目をすべて復唱してから、自分の自己紹介を付け足すという自己紹介の方法である。順番が後になるにつれて復唱項目が増え、記憶するのが大変になる。
 - (3)「前期振り返り」
積木式自己紹介と同じグループで、「前期活動停

止期間の中でも自分はこんなことをできた！」「こんなことをした！」をテーマにブレイクアウトセッションを行い、前期振り返りを行った。一人一人の振り返りはライブアンケートツールである Slido を利用して書き込んでもらった。

11：25 ワーク2 <離れていても Let's all work together! >

学年関係なく、意見や意思を伝え合い、相手の意見を尊重して否定せずに聞くということを目的に、グループで3つの議題で話し合うワークを行った。グループで出た意見は Jamboard に書き込み、ブレイクアウトセッションはグループを変えて2回行い、その後、2回目のグループでまとめた意見を全体で発表した。

12：30 お昼休み

13：30 ワーク3 <ワールドカフェ>

「来室者に満足してもらえるボランティアコーディネートが出来るようになること」を目的に、満足してもらえるコーデとは何かをグループで考えた。出た意見はグループごとに Jamboard に書き込んだ。①基本のグループで話し合い、意見を出し合う。②参加者がそれぞれ他のブレイクアウトルームへ移動して、他のグループと意見交換を行う。③基本のグループへ戻って再度考えをまとめる。④グループごとに発表。

15：05 ワーク4 <未来の企画をマジトーク!>

～ひよってるやついる？いねえよな！～
「ボランティアや企画など、学生スタッフとしての活動を意欲的に取り組めるようになること」を目的に、参加者が興味のある分野に分かれて企画を作るというワークを行った。①事前に興味のある分野に関するアンケートを Google フォームで実施。②災害・子ども・環境・福祉の4分野でグループを作り、ブレイクアウトルームで30分話し合い。④企画書を模した Word のワークシートを作成。⑤作成した企画をグループごとに発表。

16：10 クロージング

この夏研修の目的について改めて振り返った後、今日の「学び」「気づき」を今日で終わりにするのではなく、後期の活動に活かして欲しいということを伝えて、終了した。

3. 参加者の声・得られた効果など

それぞれのワーク終了時と、夏研修全体終了後にアンケートを Google フォームで、計4回実施した。

ワークごとの満足度はどれも比較的高く、充実した感想や意見がみられた。

○夏研修終了後のアンケート 回答数：21件

<夏研修全体の満足度(％で表す)>

| | |
|---------|----|
| 100% | 7名 |
| 90%～99% | 8名 |
| 80%～89% | 5名 |
| 50% | 1名 |

<この夏研修で学んだ事、考えた事などを後期の活動でどのように活かしていきたいと考えますか?>

- ・学年関係なく、意見をどんどん出し合って、面白い企画を作りたい。
- ・考えただけにとどまらず、コーディネートであれば自分の専門分野を作るなど、できることから始めたい。
- ・今回話し合ったことや出た意見をしっかりと胸において、ボランティアへの意欲と知識を兼ね備え、かつ人柄がよく親しみやすい素敵な学生スタッフになりたい。
- ・来室者に満足してもらえるために自分が考えたことと、他の人の意見を参考にしたい。

<夏研修全体の改善点や感想>

- ・考える時間がもう少し欲しかった。2日間に分けてもよかったのかなと思った。
- ・所々、休みがあったので長時間でも集中して参加できた。
- ・いろいろな人の意見を聞いていると自分では気づかなかった考えが沢山あり、視野が広がった。
- ・ワークの中で発表する担当に、自分からやりたいと立候補出来たり、自分の意見を沢山言えたので今後も積極的に参加したり、意見を言えるようにしたい。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・前日のリハーサルでは、瀬田の学生スタッフにも協力してもらい、第三者の目線からの意見を得ることが出来た。当日参加する人以外の人の意見があることで、本番までに改善点を見つけることができた。

- ・ワークごとに細かなタイムスケジュールを作り、ブレイクアウトルーム作成や画面共有の動作などを何度も練習したため、当日は時間に遅れることなく、ほぼ予定通り行う事が出来た。改めて、リハーサルや事前準備の大切さを実感した。
- ・参加者の感想について、Google フォームで集めるだけになり、全体での共有が出来なかったため、感想を共有し合える時間を取ることも必要だと感じた。
- ・ワークの時間が足りないという意見が多かったため、作成したワークは全てコアメンバーで実際にやってみたりして、時間配分をもっと考える必要があった。
- ・オンラインでの長時間のイベントは体力的にも大変になる部分があり、今後は2日間に分けて構成するのもよいのではないかと考えた。

・この夏研修はもともと対面で行う予定であったが、緊急事態宣言のため、オンラインでの開催にせざるを得なくなった。参加者同士の雰囲気や表情が分かりづらいオンラインで、如何に工夫をすれば飽きずに充実したワークができるかをよく考えた。オンラインならではのツールを使用することや、リアクションをしっかりとってもらうことを促しながら進めたことで、オンラインでも学スタ同士がたくさん話し合い、考え、これからの活動に向けた関係を構築できたのではないかと考えている。対面で開催できることが待ち遠しいが、オンライン開催でも、工夫次第で充実度の高いワークができると感じた夏研修であった。

〈報告者：早川 歩伽〉

| | |
|--------|---|
| 事業名 | SETA2020 夏の終わりのワークショップ〔瀬田〕 |
| 日時 | 2021年9月13日 10時00分～16時00分 |
| 場所 | Zoom（オンライン） |
| 実施主体 | ボランティア・NPO 活動センター |
| 参加人数 | 学生スタッフ18名 |
| 企画メンバー | 土肥亮太（社会4） 大屋晴太郎（農学4） 杉山わかな（社会3） 片岡克望（社会2） 深木真人（社会2） 中山美代子（農学2） |

1. 経緯・目的

新型コロナウイルスの影響により、例年通りの活動を行うことが困難になった。しかしながら、企画や班などの活動形態は未だにコロナ禍以前と変わっておらず、社会の変化に対応できていない。加えて、前期の活動もオンラインが中心になり、今後のボランティア・NPO 活動センター（以下センター）の活動について話し合う場が減少している。そこで、今回の夏ワークでは以下のことを目的として行う。

- ・コロナ禍におけるこれまでの活動をふりかえり、今後の学生スタッフの方向性を定め、新たな活動を生み出すきっかけをつくる。
- ・今年度の目的・目標を基に前期の活動をふりかえり、後期に向けて活動意欲を高める。
（目的：ボランティア啓発・社会貢献 目標：新しいことを始める）
- ・学生スタッフ同士の交流を深め、互いに協力し合える関係性を築く。

2. 概要

10:00 オープニング

導入の挨拶や流れの説明、注意事項のアナウンスやリアクションの練習などを行った。

10:15 アイスブレイク

簡単な自己紹介、「ito」というゲームをグループに分かれて行った。

「ito」…それぞれに1～100のいずれかの数字を割り振り、決めたテーマについて話し合いながらお互いの数字がどのくらいの大きさを予想しあうゲーム。

10:45 ふりかえりワーク

事前に各自で考えてきた前期の活動で「できたこと」とその理由、「できなかったこと」とその理由をグループに分かれてそれぞれ共有し、次に「できなかったこと」から「後期にやった方がいいこと」を話し合い、「絶対やります宣言」としてグループ内で「後期に必ずやること」を1つ決めた。全体で

各グループの「絶対やります宣言」を共有した後、再びグループに分かれ、それらを実際にやるための具体的な行動を話し合い、その後全体で共有した。

【絶対やります宣言】

- ・コーデの時間を上手に使う
- ・学生スタッフの企画への参加意欲を高めよう！
- ・班活動に積極的に参加！
- ・コロナ禍でもできる企画を作る

12:00 昼休憩

自由に入出入りできるブレイクアウトセッションルームを作り、希望があれば自由に学スタ同士が話せる場も設けた。

13:00 交流会

5つのグループに分かれてクイズ大会を行った。

14:10 休憩

14:15 コーデワーク

コーデを行う理由や対面コーデで行っていたことをふりかえり、オンラインコーデで出来ることはないか考える個人ワークを Google Form に回答するという形で行った。その後、個人ワークでそれぞれが考えたことについてグループに分かれて共有し、最後に全体でも共有した。

15:25 アンケート記入

Google Form を利用し、本ワーク全体についてのアンケートを実施した。

15:45 締め・まとめ

16:00 解散

3. 参加者の声・得られた効果など

○ふりかえりワーク

- ・事前準備やコアメンバーからのアドバイスもあり、しっかりとふりかえることができた。文字で書き表すことで、できなかったことやその原因が明確になり、ふりかえりやすいと感じた。宣言やふりかえりを話し合う中で、先輩に相談したり、先輩の体験談を聞いたりできたこともとても良かった。
- ・後期はどのように活動していけば良いのか、前期のふりかえりから順を追って考えることができたので、やりやすかった。

○交流会

・話し合いを通じて少し空気が和らいだので、次のワークに進むにあたって良い緊張ほぐしだったと思う。

・すごく楽しかった！少人数で柔らかい雰囲気でも交流できた。謎がある分話すきっかけもあり、すごいね！おもしろいね！という言葉も出やすくて笑顔が多かった。

○コーデワーク

・オンラインコーデでもできることは山ほどあると改めて感じた。「意見が出た」で終わらずこれを行動につなげていかなければならないと感じる。特に深草との交流は実現できれば面白いと思う。

・自分が学スタになる前に、どんなコーデが行われていたのかなどを知ることができた。また、これからどのようにコーデを行っていくべきなのか、深く考えるきっかけにもなった。他の学生スタッフの考えも沢山聞くことが出来て、とても充実した時間だった。

4. 学んだこと・今後の課題

・リハーサルに参加者の声をもとにしっかり改善できたことで当日はワークの説明や内容もすんなりと受け入れてもらうことができ、この企画の成功の鍵であったと言える。

・過去の合宿などの経験から、時間が押してしまい予定通りに進まなくなることを危惧して厳密なタイムスケジュールを作り、予備の時間もしっかり設けていた。その結果、当日は想像以上にスムーズに事が進み予定より少し早く終わるワークもあった。余裕を持って進められたのはよかったが、もう少し内容に厚みを持たせることもできたかもしれない。

・今回は参加人数が思っていたより少ない形での開催となった。特にワークの内容が今後の活動について考えるものやこれからのコーデについて考えるものなのに、1回生と2回生の参加がかなり少なかったのは残念だった。日程は早い段階から決めるようにし、参加者が少ないことが分かり次第すぐに別の日程も提案するなど参加人数をもう少し増やすことができればよかった。

〈報告者：深木 真人、中山 美代子〉

| | |
|--------------------|---|
| 事業名 | 春研修2021 帰り咲く春研修～ド派手に行くぜ！～〔深草〕 |
| 日時 | 2022年3月23日（水）10時00分～17時05分 |
| 場所 | 龍谷大学21号館 402号室＜対面形式＞ |
| 実施主体 | ボランティア・NPO 活動センター（深草） |
| 参加人数 | 学生スタッフ19名 |
| 企画メンバー （学生スタッフ） | 岡 智浩（文学2） 大原健太郎（経営2） 松本裕生（政策2） 伊野涼雅（短大2） 太田雄斗（文学1） 神月麻加（文学1） 山下陽菜乃（文学1） 影理天音（経営1） 榎 海斗（法学1） 大渡恵美（国際1） |

1. 経緯・目的

春研修は、学生スタッフが1年の活動について振り返り、来年度に向けての活動についてじっくり考える場として毎年実施されてきた。今回の春研修は新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の影響で2年ぶりの開催となった。

コロナの影響によるオンライン活動の増加で、学生間の交流の減少やイベントの縮小・延期・中止が重なり、これらの影響で学生スタッフの活動意欲が低下していると感じていた。そこで、コロナ対策を嚴重に行った上で、学生スタッフの活動意欲を向上させ、来年度に飛躍的な活動を展開するきっかけとするために春研修を開催した。

2. 概要

●全体内容

- ・前半：今年度のセンター・学生スタッフ振り返りワーク
- ・後半：2022年度の活動に向けたワーク

●実施事項

10：00 オープニング

10：10 ワーク1＜今を振り返って温故知新＞

目的：センター全体（主に深草）の活動内容を理解する。そして、仲間の思いをグループワークで再確認した上で、来年度のビジョンを見出す。

- (1) アイスブレイクを兼ねて、ランダムに置かれた活動写真を時系列に並び替えるゲームで1年間を振り返った。
- (2) 担当者が解説を行いながら、前期・後期のセンターでの活動を中心とした振り返りを行った。
- (3) さらに深めるためにKPTシートを用いて、今年度の良かったこと（Keep）、改善すること（Problem）、新たに挑戦すること（Try）の3つを題材としたワークを行った。

①個人ワークでシートに記入

②その後にグループで意見交換しながら、自分でも気づかない点などについて話し合った。

11：40 ワーク2＜Motivate oneself One step further＞

目的：今年度の振り返りを行い、来年度への活力にする。また、グループワークでインタビュー形式を取り入れることによって、話を受け止め、広げる等のコーデ力を高めることも狙いとしている。

(1) ヒーローインタビュー

1人がヒーロー、他の2人がインタビュアーという3人グループを作り、2人が1人に質問する。質問は2つ。質問①は「参加したボランティア・講座 or 興味のあるボランティア」について、次の質問②では、メンバーを変更し、「1. 今年度頑張ったこと 2. 今年度挑戦しようとして出来なかったこと（各1つずつ）」についてのアドバイスや意見を聞き、その内容をワークシートに記入した（このワークシートの内容は、春研修終了後に学スタハンドブックに挟める形にまとめる予定）。

12：50 お昼休み

13：50 ワーク3＜失礼だなーMT（ミーティング）だよ、＞

目的：MTに参加する意義を再認識し、学生スタッフのMTに対する意識を変える。

- (1) 「今のMTに対して思うこと」「MTの理想像」について思うことを個人で書き出し、次にグループワークで共有。（メンバーを変えて2回実施）
- (2) ①「MTで質問（反応）を増やすには？」②「学生だけのMTは必要か？」③「どうすれば対面で参加したくなるのか？」のテーマをグループ毎に話し合い、意見をまとめて各グループ発表した。
- (3) ①「MTを毎週開催する必要がある？」②「議事録って必要？」③「MTに参加する意味って？」のテーマをグループ毎に話し合い、意見をまとめて各グループ発表した。これらの議題は主に、現

| | |
|--------|--|
| 事業名 | 褒め合い・高め合い・認め合う春ワーク2021〔瀬田〕 |
| 日時 | 2022年3月24日（木）10時00分～15時00分 |
| 場所 | 2号館多機能教室 |
| 参加人数 | 17名 |
| 企画メンバー | 中山美代子（農学2） 松村優輝（農学2） 美野田愛（農学2） 池本結希菜（社会1） 川口克基（社会1） |

1. 経緯・目的

学生スタッフの1年間の活動の良かったところ、改善点などを振り返り、次年度の活動へとつなげる機会を毎年春期休暇中に設けている。例年はそれとは別に行っていた学生スタッフ活動の目標決めを、今年度は振り返りと関連付けて行うことにした。

また、2021年度はコロナ禍の活動制限もあり、学生スタッフ同士の関係が希薄になってしまった。一部の人間関係は構築できていたものの、新スタッフの加入時期もバラバラで、ほとんど会ったこともない、よく知らないという現実も少なからず存在した。そこで、お互いの理解を深めて今後の前向きな活動につなげられるために、「褒め合い」をテーマとしたワークを行うことで、互いの知らない良いところに気づくことを目指した。

2. 概要

10:00 オープニング

導入のあいさつや流れの説明を行った。

10:10 チェックイン

プログラムを始める前にお互い打ち解け合うためのアイスブレイクを行った。

みんなで輪になって「春休み何してた?」、「私の好きな○○」という二つのお題に対して語り合った。

10:20 一年間の振り返り

模造紙と付箋を使ったグループワークを実施した。

黄色の付箋に出来事、赤色の付箋に感想・反省点をそれぞれ書き出してもらい、模造紙に張り付けた。その後、簡単に班で話を交えつつ出来事の共有を行い、班の模造紙を見合っているなと思ったり、共感できたりしたものには色シールを貼り合った。

—休憩—

13:00 次年度の目標決め

予め幹部の間で今年度目指したい目標を決めておき、それに基づいて学生スタッフにも意見を

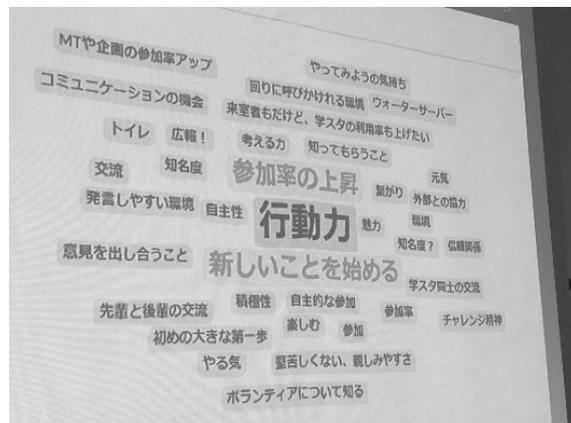
Slidoでもらった。

15:00 今後のスケジュールの確認

1年間の流れを表と照らし合わせながら確認した。

15:10 クロージング・アンケート

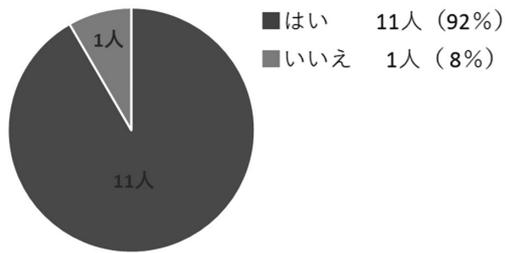
今回の春ワークについて、参加者の満足度等を図るためにアンケートを実施した。



3. 参加者の声・得られた効果など

企画メンバー以外の参加者12名が全員アンケートに回答し、全員が他の学生スタッフの良いところを知れた、前向きになれた（少しできたを含む）と回答している。このことから、参加者が互いに話をすることで交流でき、刺激を受けたと考えられるため、「褒め合い・高め合い・認め合う」という本ワークの目的はある程度達成できたと考えられる。全員が肯定的な回答をしていることから、全体的には良いワークになったと言えるのではないだろうか。

③春ワークを通して個人での取り組みやセンターの活動で良かったことは見つかりましたか？



④上の質問で「はい」と答えた人は、どのようなことが良かったですか？また、「いいえ」と答えた人は、なぜ見つかることができなかったと考えますか？

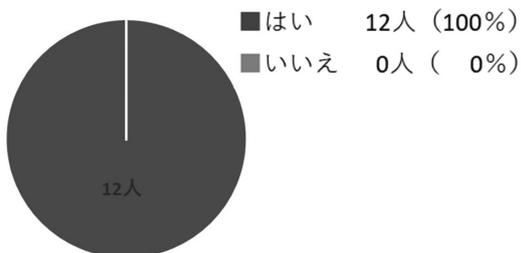
○はい（一部抜粋）

- ・周りからの刺激を得られたこと
- ・自分が思ってたより頑張っていた
- ・全体的に振り返って自分も1年間通して様々な活動が出来たが、他の人たちも色々な活動をしていて積極的に動く事の大切さを改めて感じる事が出来た。
- ・学スタとしての活動を通して、学んだり考えたりしたことがたくさんあることに、振り返りを通して改めて気づかされた。

○いいえ

- ・活動がそんなに多くなかったため

⑤春ワークを通して個人での取り組みやセンターでの活動で課題は見つかりましたか？



⑥上の質問で「はい」と答えた人は、どのような課題が見つかりましたか？また、「いいえ」と答えた人は、なぜ見つかることができなかったと考えますか？

- ・コーデの時間を見直すべきだと思う
- ・模擬コーデ以外でコーデをする機会がなかったので、来年度のコーデからはできるように自分でも工夫したい。
- ・ボランティアに行く
- ・お互いに声を掛け合って協力するにはもっと知り合が必要だと感じた。

⑦瀬田ボラセンでの新年度の目標をみんなで決めましたが、その目標を達成するために、班活動や個人での取り組みであなたは何かできるとおもいますか？

- ・積極的にコミュニケーションをとる
- ・MTの声がかかった時に他の人にも呼びかける。
- ・たくさんの人と交流して、ボランティアなどに誘ってみる。
- ・交流会の開催・参加

4. 学んだこと・今後の課題

- ・当日の段取りが悪くなってしまったことから、事前の打ち合わせを細かく行う事が大事だと学んだ。その際それぞれの役割分担や時間配分を決めておくことが有効だと考える。
- ・アンケートから内容は悪くなかったとの回答があったが、説明の不十分によりこちらの伝えたいことが正しく伝わっていなかった。リハーサルを行わなかったために内容の改善点が見つけられず説明が不十分なままになってしまった。
- ・今後の課題としては先に述べた通り、事前の打ち合わせとリハーサルを入念に行うこと、そして新歓と春ワークの企画メンバーを分けておくことが挙げられる。今回は新歓と春ワークの両方を幹部が担っていたため、負担が重なってしまった。

〈報告者：美野田 愛〉

| | |
|--------|--|
| 事業名 | ボランティア・NPO 活動センター学生スタッフ HANDBOOK の作成 |
| 日時 | 2021年11月～2022年3月 |
| 企画メンバー | コーディネーター： 竹田純子（深草） 吉田裕貴（深草） 國實紗登美（瀬田） ヒギンズ尚美（瀬田） 学生スタッフ： 早川歩伽（文学3） 園原 聖（法学3） 竹内祐人（法学3） 杉山わかな（社会3） 安原拓真（社会3） 井関萌乃（文学2） 喜多真央（文学2） 三野涼介（経済2） 中山美代子（農学2） 松村優輝（農学2） 美野田愛（農学2） 伊野涼雅（短大2） 榎 海斗（法学1） 川口克基（社会1） |

1. 経緯・目的

センターには、約100名の学生スタッフが所属しており、教員・職員・学生スタッフの三者が協働してセンターを運営しています。学生スタッフの活動は、全てボランティアコーディネーションに繋がるものとして、設立以来さまざまなボランティア企画や班活動などに取り組んできました。それらの活動では、先輩の取り組みを見たり教えてもらいながら後輩へ引き継がれていましたが、新型コロナウイルス感染拡大による対面活動の制限などでその機会が失われたのが2020年・2021年でした。

そのため、学生スタッフ自身のボランティア機会の減少によるコーディネーション力の低下が懸念されたり、対面で関わることによって築けていた学生スタッフ同士の関係性やコミュニケーション力の低下などが課題となっていました。

一方、学生スタッフの登録時に配布していたセンターの概要説明書類についても、年と共に実情に合わなくなってきたり、キャンパスごとに配布物が異なったりしていたため、以下のことを目的にした新たな冊子を作成することになりました。

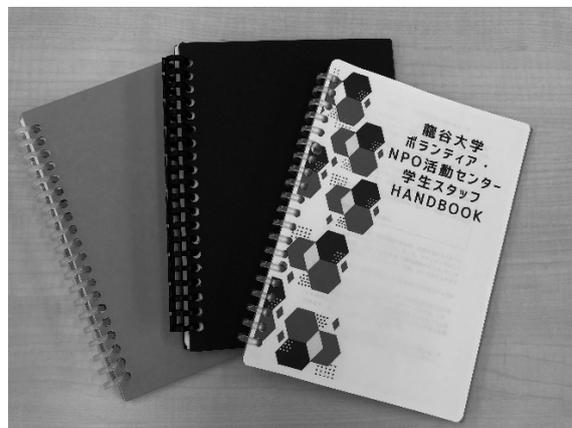
- ・学生スタッフ活動のベースとなる指針を示し、既存の学生スタッフ、新スタッフ、教職員が共通の認識を持つ。
- ・特にコロナ禍において活動が止まり、活動やその活動の意味などについて継承が充分に行えない現状がある中、改めて活動の意味について考え、全員で共通認識を持つ。
- ・学生スタッフとしての自発的な取り組みや、活動への参加を促進する。
- ・教職員との連携強化を図る。

2. 概要

以下のとおり作成しました。

【目次】

- ・学生スタッフ HANDBOOK 作成にあたって
- ・龍谷大学 建学の精神
- ・センターの理念・目的・基本方針
- ・本文（以下 I～V）
- I. ボランティア・NPO 活動センターについて
- II. センターの取り組みと学生スタッフの役割
- III. センターの求める学生スタッフ像
- IV. 学生スタッフの主な活動
- V. 学生スタッフへのサポート体制
- ・ボラセンの1年間
- ・2022年カレンダー（4月～12月）



【仕様】

サイズ：A5 約40ページ ルーズリーフ印刷
 新たな項目を設けることなども見据え、差し替え可能なルーズリーフにしました。

【完成までのスケジュール】

11月 スタッフ会議にて HANDBOOK 作成について推敲。

- 12/23 第8回ボラセン会議にて HANDBOOK の趣旨説明を行い、盛り込んで欲しい内容などの意見出しと、併せて実行委員の募集アナウンスを行った。
- 12/27～ 内容について大まかな方向性の確認や掲載内容の推敲などを目的に、実行委員会を3回と各キャンパスの学生スタッフミーティングで意見交換を重ねる。
- 2/2 第9回ボラセン会議を中間報告の場とし、質問やわかりにくいところの確認などを行う。
- 3/15 第10回ボラセン会議後に HANDBOOK 説明会を行い、理解度を Google フォームで入力することを学生スタッフ全員に必須とした。(欠席者は動画視聴で対応)
- 3/30 HANDBOOK 内容を、HP の学生スタッフページに掲載。

3. 参加者の声・得られた効果など

HANDBOOK 説明会後に回答必須としたアンケートでは、共感したことや、改めて認識したこと、印象に残ったことなどを問いました。(以下、抜粋)

- ・自分たちは単なるボランティア団体ではなく、龍大にボランティアを広めるための活動をしている学生団体なのだと再確認できた。
- ・昨年度活動する中で、私は、後輩に学スタとしてのルールや先輩から受け継いできたものをどう伝えるかにとても悩みました。コロナ禍で企画がなくなったり会えなくなる中で、体験する、見て学ぶということができなくなったため、伝え方が難しくなっていました。そんなときにこのハンドブックが作成され、正しい情報を後輩に受け継げ

るようになり、心強いものがまたひとつ完成したなと思います。

4. コーディネーター所感

教職員で構成した『ボラセンのこれからを考える会議』にて、学生スタッフに関する課題について意見を出し合った結果、この HANDBOOK 作成を立て直しのスタートとして位置づけることになりました。その際、センター長より学生スタッフと共に内容を考えることが必要であるとの助言を受け、実行委員会形式で作成することになりました。このことから実行委員の学生スタッフの意見も反映しつつ、各キャンパスの学生スタッフミーティングやボラセン会議などでも合意をとりながら進めることができましたと感じています。

3月の完成後はその内容を HP の学生スタッフのページにも反映させたり、4月からの新歓ガイダンスでもコーディネーターからはそのエッセンスを取り入れた説明にするなど、新スタッフを含めた学生スタッフ全員が活用し、内容を理解してもらえるような機会をつくることを心がけていきたいと思いません。



学生スタッフ HANDBOOK
はこちらからご覧いただけます

〈報告者：ヒギンズ 尚美

(瀬田キャンパス コーディネーター)〉